

塘研究室現地調査報告 04

5月21日に表磐梯と裏磐梯にて現地調査を実施しました。4月23日に実施した塘研究室の4年生、林宏至朗君の調査の第2回目で、塘と黒沢研究室の大学院生・首藤君が同行しました。

池の水位はまだ高く、元の状態にまでは戻っていませんでしたが、水生植物はかなり見られたため、環境測定用機器の設置は再度延期し、それ以外の調査（水草のコドラート調査と底生動物の採集調査）を実施しました。すでにコサナエ、カラカネトンボなどは羽化して成虫が活動しており、底生動物もエゾイトトンボの幼虫とキリバネトビケラ類の幼虫がどの場所でもたくさん見られました。ゲンゴロウ類は4月の調査で確認できたキベリクロヒメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ類、コツブゲンゴロウ類が再度確認されましたが、福島県内3ヶ所目の生息を確認したナガケシゲンゴロウは1個体も発見されませんでした。4月に見られなかったゲンゴロウ類としてはゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウが記録されました。また、4月には採集できなかった止水性ヒメシロカゲロウ属の未同定種は多数の個体が採集でき、リターや浮島がある場所ではほぼどこにでも分布していることが明らかになりました。

帰りにこちらも前回は雪融のため増水し、採集できなかった裏磐梯の小野川湖付近の池でヒメシロカゲロウ属の未同定種の遺伝子解析用サンプルを採集しました。この池は驚くほど水位が下がっており、ヒメシロカゲロウ属の未同定種もサンプルを得ることができました。

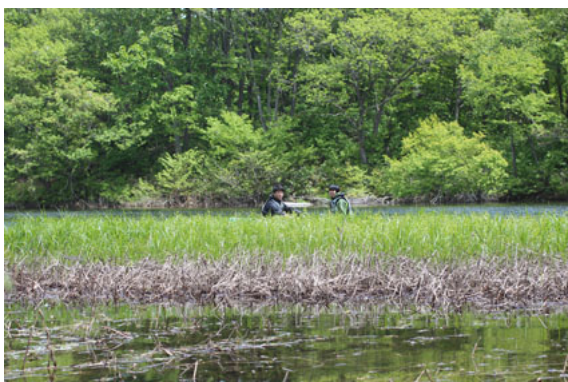
予報では悪い天気ではなかったはずが、時折雨に降られ、風も強かったため、やや肌寒さを感じました。とは言え、今回はボートを使用したので、池上では池周囲の新緑を感じながらの気持ちの良い調査となりました。



表磐梯の池でのボートを使用しての調査 1



池内で多数見られたタヌキモ



表磐梯の池でのボートを使用しての調査 2



裏磐梯小野川湖付近の池での調査